

令和元年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

「身のまわりの税に感じること」

奈良市立二名中学校 三年 藤野 結子

税についての作文を書こうとしたが、「税」がどんなもので、何に使われているのかをよく知らない。そこで「税」の種類や使い道について調べてみた。

「税」は、国民のくらしに必要な施設やサービスにかかる資金をみんなで負担するために、政府に納めるお金のことである。大きく分けると国税と地方税があり、国税は国に納める税金で、消費税や所得税、相続税などがある。地方税は自分が住んでいる地方自治体に納める税金で、住民税や固定資産税などがある。

そしてその使い道としては、道路や上下水道の整備、教育や医療、福祉などの公共サービス。また、貧富の差を少なくする所得の再分配や景気の調整にも利用されており、社会の安定を支えていることが分かった。

税はみんなが納めるものなので、使い道にはさまざま議論がある。その中で、上手く税を使っていけるようにすることが大事ではないかと思う。

たくさんの税金の使い道がある中で私が特に良いと思っているのは、図書館である。

図書館は、誰でも自由に利用して知識を得ることができる。さまざまなジャンルの本が置いてあるため、子供からお年寄りまで必要な本を見つけることができる。図書館の施設の管理や運営は、全て税によって行われているのだ。

私は、幼稚園に通っていたころからよく図書館を利用しており、今でも時間があるときには本を借りている。夏休みに出される自由研究などの宿題で資料が必要なときは、よく図書館の本を利用している。今回も、図書館で本を借りて「税」について詳しく知ることができた。これからも、調べたいことがあったら図書館を利用しようと思う。

前にも述べたように、図書館は誰でも利用することができる素晴らしい施設である。このようなことに税を利用するということはとても良いことだと思っているし、これからもこのような施設への税の利用が続いていけば良いなと思っている。

私は今まで「税」について詳しく知らなかった。だから、消費税が上がるということにあまり良いイメージはなかったし、いろいろなところに税をかける必要があるのかと思っていた。しかし、今回「税」について調べたことで、国民が納めた税は私たちの暮らしを良くするために利用されているということが分かった。そのことによって私の考え方は大きく変わり、「税」というものは国にとってなくてはならないもので、私たちの暮らしを支えてくれているんだと思うようになった。

今、少子高齢化などにより必要な資金が増えている。みんなが納得できる税の集め方、そして活用が行われることを期待している。